

事業所職員向け

児童発達支援自己評価表

「児童発達支援ガイドライン」に沿った自己評価を実施し、弊事業所の工夫点と今後の改善事項について整理しましたのでご報告申し上げます。ご意見、ご相談がございましたら職員までお声かけください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		独歩獲得している児童の場合、体を十分に動かせるスペースが少ないですが、活動内容を工夫したり外出してのびのび動けるような機会も作っています。
	2	職員の配置数は適切であるか	○		療育の質の向上を目的とすると、マンツーマンで関わるとよいと感じるときもあります。現状を評価して今後検討していきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		床マットの段差の有無で転倒の危険あるため、予防の工夫をしています。 網戸がないため害虫が室内へ侵入するため定期的に虫よけなどの対策をしています コロナ禍においては、感染防止策としてこれまで以上に児童の特性に配慮した環境整備及び療育内容の工夫をしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		毎日、開所前に環境整備実施しています。さらに療育に必要な空間を確保するため、重度心身障害の児童のバギーを室内から室外へ配置変換しています。普段使用していない備品の保管場所を検討しています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		月1回のミーティングで業務改善について意見交換しています。また、緊急を要する案件については都度実施しています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページだけでなく、室内に閲覧用ファイルを置いています。

	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	現在、準備を整えています。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○	研修参加職員からの伝達講習に取り組んでいます。保育士・児童指導員の療育に関わる研修に積極的に参加していきたいと考えています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか		○	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○	子どもさんの発達状況については、発達テスト等を参考に把握しています。支援に必要な情報を得るため、さらにアセスメントしやすい内容を検討しています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか		○	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか		○	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか		○	月1回のミーティングで計画しています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか		○	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○	事前に計画を立て療育内容や職員の役割分担を確認しているが、当日の児童の健康観察や天候などにより変更することも多いです。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○	毎日時間が確保されている状況ではありませんが、その日の療育の中で共有すべきことは業務終了後必ず実施するように取り組んでいます。	

	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		記録内容は、子どもの個別支援計画に沿って残すようにしています。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		モニタリングや支援に関わる会議には担当職員が参加しています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		市町村の子ども支援担当や保健センター及び乳幼児教育支援センターなどとは常に情報交換や共有をしています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		主として、重度心身障害児をうけいれていますので連携し支援を提供しています。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		同施設内の主治医であったり、他医療機関の医師とは連携会議の場や地域連携室を通じて体制を整えています。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		移行支援時は、乳幼児教育支援センターや教育委員会及び特別支援学校などの教育機関と必ず連携しています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		移行先からの見学・訪問及び情報共有の体制を整えています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		子どもさんの様子に応じて、担当者連携会議を実施しています。また、定期的な事業所間の連携会議も実施しています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○		コロナ禍においてはありますが、地域の公園で保育園の子どもたちと触れ合う機会であったり子育て広場などを活用しています。

	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		重度心身障害の子どもさんの利用が主であるため、医療的ケア部会、在宅支援部会へは積極的に参加しています。また、発達障害部会からの情報もいただいています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		希望がある場合は、都度子どもさんへの関わり方について専門職のアドバイスもいただきながら助言をしています。また、行事としての参観日に関わり方などの場面を実際に見て経験していただいています。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		書面による説明及び室内の掲示をしています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		児童1人ひとりの個別支援計画を立案し、書面を確認しながら説明と同意を得ています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		保護者会への直接参加はしていませんが、保護者間のつながりを図れるよう声掛けをしています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		児童の様子との共有に個別資料を作成しています。定期的な相談を実施したりその場合の環境の配慮や手段の工夫をしています。

非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	戸外活動での挨拶等、地域の方と触れ合うような対応を心掛けています。行事案内や広報活動は、今後積極的に取り組んでいきます。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか		○	人工呼吸器を使用されている児童の利用が増えている中で、個々に避難方法を検討し訓練することで職員間の周知徹底をしています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		○	上記同様の内容で毎月実施して記録しています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか		○	利用前の準備として情報把握していますが、毎回利用時に保護者から服薬内容と体調確認をしています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	保護者から聞き取りで確認し、対象となるお子さんには、医師の指示に基づきアレルギー除去食を提供しています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○	事象発生時は作成し、医療安全委員会へ報告し職員間で内容の共有をしています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		○	院内研修での周知、権利擁護推進委員会に参加しています。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか		○	行動制限マニュアルを策定し、保護者への説明及び同意を得ています。制限する時間や場所、使用するバギーなどについては個別支援計画に記載また、日々の記録をしています。	

令和3年2月末日

京都府立舞鶴こども療育センター「ひかり」

管理者 四方 あかね